

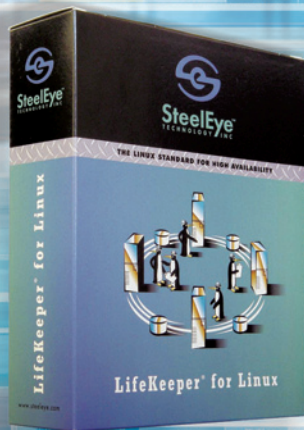
# SIOS Report

2006年11月6日、テンアートニはサイオステクノロジーに社名を変更します。Preview版

## 第10期中間事業報告

2006年1月1日～2006年6月30日

財務ハイライト	2
株主の皆様へ	3
トップインタビュー	4
事業の概況	
Linux関連事業	8
Java関連事業	10
要約財務諸表	12
株主アンケートの集計結果	14
株式の情報/株主メモ	15
会社概要	16

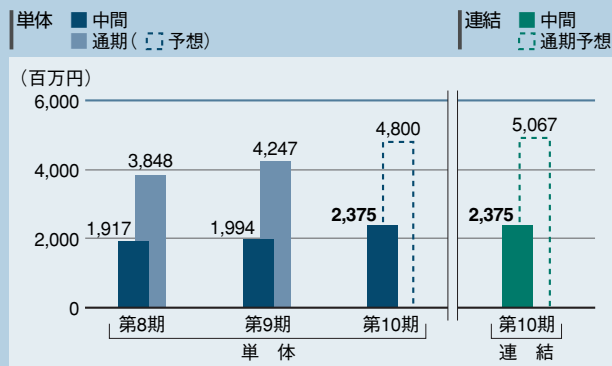


北米の優良ソフトウェアメーカー  
SteelEye Technology社が  
当社グループの一員となりました。

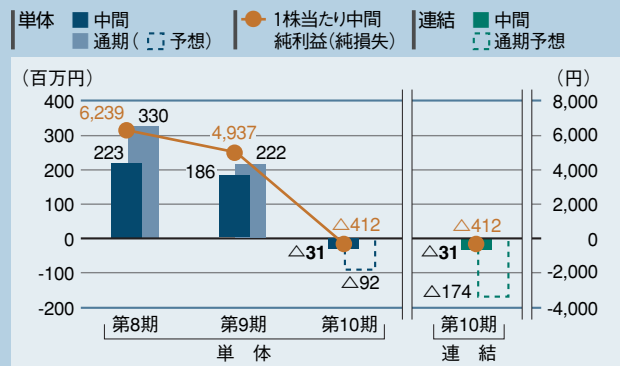
# 財務ハイライト

	単体						連結	
	第8期中間	第8期	第9期中間	第9期	第10期中間	第10期(予想)	第10期中間	第10期(予想)
売上高(百万円)	1,917	3,848	1,994	4,247	2,375	4,800	2,375	5,067
経常利益(百万円)	168	243	178	268	47	57	47	△24
中間/当期純利益(純損失)(百万円)	223	330	186	222	△31	△92	△31	△174
総資産(百万円)	1,426	1,943	2,395	2,857	4,688	—	4,859	—
株主資本(百万円)	957	1,585	1,772	1,871	1,813	—	1,813	—
1株当たり中間/当期純利益(純損失)(円)	6,239	9,019	4,937	2,924	△412	—	△412	—
1株当たり株主資本(円)	26,724	41,902	46,839	24,216	23,370	—	23,370	—
従業員数(名)	99	103	139	134	189	—	216	—

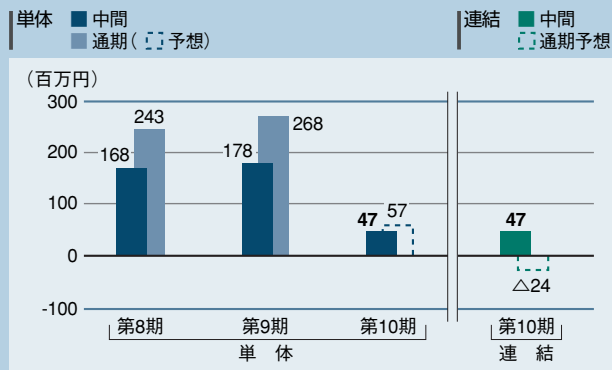
## 売上高



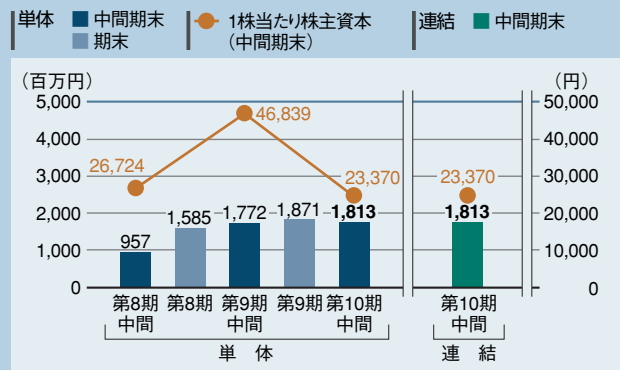
## 中間/当期純利益(純損失)・1株当たり中間純利益(純損失)



## 経常利益



## 株主資本・1株当たり株主資本



注) 当期(第10期:2006年12月期)から連結決算を開始しました。前期までは非連結決算でした。

## 株主の皆様へ

サイオステクノロジーグループとして、  
グローバル市場で収益の拡大をめざします。

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

ここに「SIOS Report Preview版」をお届けするとともに、当中間期（2006年1月1日～2006年6月30日）の業績および通期の見通しについてご報告します。

- 矢野経済研究所の調査により、当社は国内の2005年度サーバ用Linuxディストリビューションサポートサービス市場において、売上高シェア第1位を獲得しました。
- 情報システムの24時間365日の稼働をサポートするソフトウェアのLinux版で世界トップクラスのシェアを持つ米国SteelEye Technology社を2006年6月に買収しました。
- 当中間期単体での売上高は、前中間期比19.1%増となる23億75百万円となりましたが、新たな人材の積極的採用や研究開発投資の増加により、販売費及び一般管理費が同45.4%増加し、経常利益は同73.7%減の47百万円となりました。また、中間純利益は、繰延税金資産を取り崩したことから、31百万円の損失となりました。

下半期以降も、ソフトウェア販売、Linuxを使ったシステム構築の受託を強化するとともに、2006年6月に連結子会社化した米国SteelEye Technology社との営業面、開発体制面での相乗効果を追求し、連結経営での収益力の向上をめざします。なお、同社の損益計算書については下半期から当社の連結対象となります。

通期の業績については、単体売上高48億円、単体経常

利益57百万円となる見通しで、連結売上高は50億67百万円、連結経常利益は買収にともなうのれん償却の発生により△24百万円、EBITDA（営業利益十減価償却費十のれん償却費）は140百万円となる見通しです。また当期純利益は、連・単ともに繰延税金資産の取り崩し等により、単体△92百万円、連結△1億74百万円となる見通しです。

当社は、自らの社会的価値を再確認することを目的に、CI活動を開始し「私たちは、夢溢れるソフトウェアテクノロジーで価値を創造し、社会の発展に貢献します」という新たな企業理念を定めました。今後、グローバルに事業を展開するにあたり、これらの意志と決意を社内外に明示すると同時に、グループでのさらなる飛躍を期して、2006年11月6日「サイオステクノロジー株式会社」に社名変更します。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2006年9月

代表取締役社長

喜多伸夫



オープンソースソフトウェアビジネスの発展に貢献する  
世界レベルのソフトウェア企業をめざして。

創業以来、LinuxなどのオープンソースソフトウェアやJava技術にフォーカスし、業容を着実に拡大させてきたテナートニ。同社はいま、長年にわたって蓄積した技術と経験を活かし、世界クラスのソフトウェア企業への進化をめざしています。

その実現に向けた具体的な戦略などについて、喜多社長に伺いました。

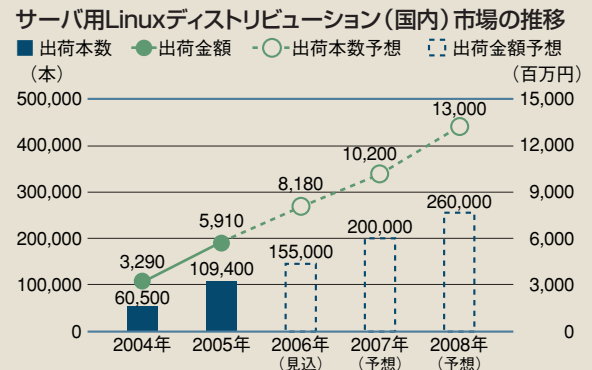
### テナートニが事業の基盤としている OSSビジネスの現状について教えてください。



オープンソースソフトウェア(OSS)の代表格であるLinuxは、ネットワーク機能やセキュリティに優れた極めて安定性の高いOS(基本ソフトウェア)です。最近の調査では、2005年における国内のサーバ用Linuxディストリビューション<sup>※1</sup>市場は、出荷本数・金額とも

前年比180%前後という伸びを示しました。今後もこの勢いは続き、2008年には出荷金額で130億円に達すると予想されています。

※1 Linuxディストリビューション:Linuxカーネル(Linuxを構成する基本要素)に加え、さまざまなOSSやソフトウェアを組み合わせ、ユーザーが導入・利用できるようにした頒布形態



出典:「Linuxディストリビューションの市場動向に関する調査結果 2006」  
2006年6月矢野経済研究所調べ

### OSSがそこまで普及してきた理由は どこにあるのでしょうか?

経営環境が激しく変化し、企業が短いサイクルで情報システムの更新・機能拡張を迫られるなか、ソフトウェアのライセンス料金が不要で、システムの導入コストを低減できるOSSへの注目が高まるのは当然といえます。また、OSSはソースコードと呼ばれる設計情報が公開されているため、世界中の開発者によって絶えず改良されており、Linuxなどの主要なOSSについては、機能・安定性・信頼性で商用ソフトウェアを凌ぐレベルに達しています。そのため、最近ではWebサーバやメールサーバにとどまらず、基幹業務系のシステムやデータベースにOSSを導入する企業も増えています。このように、コスト面のメリットに加え、性能や信頼性の面でも企業情報システム



として十分に使えると証明されたことが、最近のOSSの普及につながっていると考えられます。

### では、テナートニの強みは何ですか？

当社は1997年の創業以来、LinuxをはじめとするOSSや、Webアプリケーションソフトウェアの開発に最適なプログラミング言語であるJavaにフォーカスし、これらを活用したソフトウェア、ハードウェア製品の開発・販売とサポート、システム構築サービスに力を注いできました。

こうして業界に先駆けて先進的なソフトウェアテクノロジーに挑んできた結果、たとえばLinux関連事業では、現在、国内のサーバ用Linuxディストリビューションサポートサービス市場においてシェアNo.1の地位を確保しています。また、Linux用HA

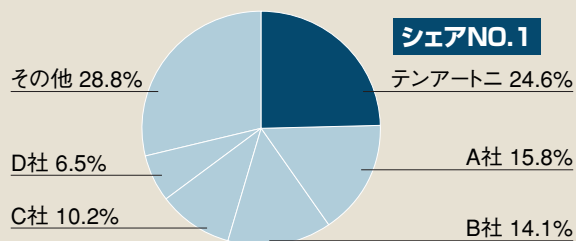
クラスタソフトウェア<sup>※2</sup>で世界トップクラスのシェアを持つ「LifeKeeper」を提供しています。一方、Java関連事業でも自社開発のWebシステム開発支援ソフトウェアや高品質の受託開発事業が売上を伸ばしています。

このように、OSからミドルウェア、Webアプリケーションまで幅広い技術・製品を持ったソフトウェア企業として、お客様に最適のソリューションを提供できることが当社の大きな強みといえます。

<sup>※2</sup> HAクラスタソフトウェア:システムの可用性を高めるために、情報システムの障害発生時に待機用システムへの自動切換えを行うソフトウェア



サーバ用Linuxディストリビューションサポートサービス  
(国内)売上高のシェア(2005年実績)



出典:「Linuxディストリビューションの市場動向に関する調査結果 2006」  
2006年6月矢野経済研究所調べ

### 中期的な成長戦略をお聞かせください。

当社は、将来にわたって市場成長以上の伸長を実現するため、優れた技術者や営業要員の採用に力を入れ、米国SteelEye Technology社の連結子会社化など積極的な成長戦略を進めてきました。これにより本格的な収益拡大への準備が整ったと考え、今後は当社の強みである豊富なソフトウェアテクノロジーを活かして、好調なLinux関連事業の拡大やJava関連事業の差別化、グローバル市場への進出などを図り、世界レベルのソフトウェア企業への飛躍をめざします。

個々の戦略について詳しくお聞きします。  
まず、Linux関連事業の戦略を教えてください。

現在、需要が増大しているLinuxのサポートビジネスでは、サーバ用Linuxディストリビューションサポートサービス市場シェアNo.1としての強みを活かし、今後もサービス品質・充実度を高めて一層のシェア拡大を図ります。また、基幹業務系サーバやデータベースなどの、24時間365日止まらないことを要求される分野のニーズ拡大に対応し、「LifeKeeper」の拡販と技術サポート、システムの構築に力を注ぎます。

さらに最近では、Linux以外にもさまざまなOSSを組み合わせ、安定性と費用対効果に優れた情報システムの構築を求める企業が増えています。当社では、創業以来培ってきたOSSに関する豊富な技術と経験をもとに、たとえばApache※3、Tomcat※4、JBoss※5、Samba※6といったLinux以外のOSSの導入コンサルティング、システム構築、テクニカルサポートの事業にもいち早く着手しており、OSS導入に積極的なお客様に向けてOSからWebアプリケーションまでワンストップで製品やサービスを提供できる体制を整えています。これら各種OSSビジネスについては、すでに複数の大手企業と提携を結んでおり、今後も当社の中長期的な戦略事業として育てていく計画です。

※3 Apache: 世界で最も使われているオープンソースのWebサーバ

※4 Tomcat: Apacheなどの機能を拡張するオープンソースのアプリケーションサーバ

※5 JBoss :100%Javaで書かれたオープンソースのアプリケーションサーバ

※6 Samba :UNIX/LinuxマシンをWindows互換のファイルサーバやプリントサーバにするためのOSS

Java関連事業の戦略を教えてください。

Java関連事業では、特に自社開発ソフトウェアの強化に力を注いでいます。Javaアプリケーションミドルウェア「TenArtni Ninja-VA」や、Web帳票ソフトウェア「WebReportCafe」などに加え、ビジネスアプリケーションとして営業効率改善ソフトウェア「TenArtni SFA+」を提供しています。今後もソフトウェア開発の効率化やWebアプリケーション分野にフォーカスした高付加価値のソフトウェア製品を提供していく計画です。

また、受託開発ビジネスにおいても、今後の成長が期待できるブログ開発などの新たなシステム構築ビジネスへの取り組みを強化するとともに、受託ソフトウェアの品質管理マネジメントを一層強化して事業の差別化を図っていきます。

ソフトウェアを中心としたテンアート二のソリューション

アプリケーション	● TenArtni SFA+ ● WebReportCafe	● ● ● OSSサポート トレーニング
開発ユーティリティ	● Agitator ● protexIP ● Fortify ● Rational	
開発フレームワーク	● TenArtni Ninja-VA	
HAクラスタ	● LifeKeeper	
OS	● Red Hat Enterprise Linux	
ハードウェア	● IAサーバ	

## SteelEye Technology社の子会社化で期待される効果は何ですか？

世界のIT技術者の間で定評のある「LifeKeeper」の開発・販売元、SteelEye Technology社の連結子会社化によって、当社はこの製品の開発から販売・サポートに至る一貫したソフトウェア事業が展開できるようになりました。また、これまで以上に的確に、お客様のご意見・ご要望を製品開発の要件に盛り込むことができるため、市場ニーズに即した迅速な製品開発サイクルを実現できます。さらに、今後は「LifeKeeper」の売上拡大はもちろん、「LifeKeeper」のコア技術を応用した新製品の開発、HAクラスソフトウェアの販売と相乗効果の見込めるソフトウェア製品・サービスの提供など、積極的に事業機会の拡大を図ります。



2006年8月にサンフランシスコで開催されたLinuxWorld Conference & Expo

## グローバル展開についてはいかがですか？

SteelEye Technology社は、米国および欧州において、各地の専門代理店などを通じた「LifeKeeper」の販売・サポートを行っています。今後は、同社のグローバルな販売網を活用し、当社が保有するソフトウェア製品やサービスの海外展開を進めていく予定です。また、同社は、HAクラス技術はもちろんLinuxカーネル<sup>※7</sup>のエンジニアなど、専門性の高い優

秀な人材を多数擁しています。彼らと当社スタッフは日常的に電話会議などでの意見交換を始めていますが、今後は米国への派遣研修や共同研究プロジェクトなどを通じて人材交流を積極的に推進していく計画です。こうした取り組みによって、今後のグローバル展開を支える優れたエンジニアや営業、マネジメントスタッフを育成していきたいと考えています。

※7 カーネル:アプリケーションや周辺機器の監視、ディスクやメモリの管理といった基本機能を担うOSの中核部分

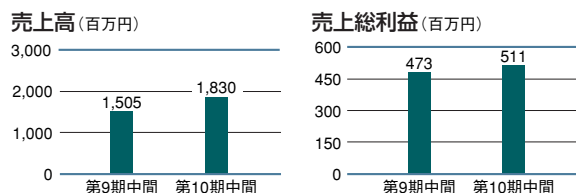
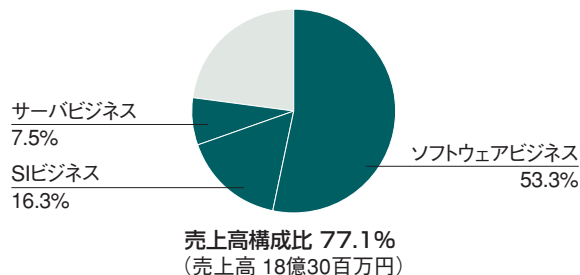
## 最後に、株主の皆様へのメッセージをお願いします。

当社は2006年11月より、「サイオステクノロジー(SIOS<sup>※8</sup> Technology, Inc.)」に社名変更します。日本人にも欧米人にもより発音しやすく覚えやすい新社名を採用することでソフトウェア企業としてグローバルな認知度を高めたいという狙いです。当社は、世界市場での「SteelEye Technology社」や、その製品である「LifeKeeper」の知名度・ブランド力も最大限活かしながら、SIOSという名称をOSSやJava分野におけるグローバルブランドに育て上げ、世界クラスのソフトウェア企業としての基盤を築いていきます。これからの当社にどうぞご期待ください。

※8 SIOS:Software Innovative Open Solutionsの略



### 当中間期の事業概況



当中間期におけるLinux関連事業の売上高は18億30百万円、売上総利益は5億11百万円となりました。

Linuxディストリビューション「Red Hat Enterprise Linux」に独自のサポートサービスを加えて販売している当社は、その強化策として、従来の平日9時から21時までのスタンダードサポートに加え、より充実したサポートを希望されるお客様にお応えし、24時間365日のプレミアムサポートを開始しました。

さらに、システム障害が発生した場合、早期解決に向けてハードウェアもしくは「Red Hat Enterprise Linux」のいずれに原因があるかを判別するサービスを開始しました。またHAクラスタソフトウェア「LifeKeeper」については、市場におけるLinux版での知名度を活かし、Windows版の販売を本格化しました。以上のようにソフトウェアの販売・サポート活動を充実させた一方、SIビジネスのさらなる拡大をめざし、技術要員の積極的な採用にも注力しました。

## Linuxに関する卓越したノウハウと知見を

### ソフトウェアビジネス

OSを主軸として、高品質のLinux関連ソフトウェアを信頼のサポートとともに提供しています。

当社は、LinuxおよびLinuxに対応するソフトウェアを顧客企業に提供しています。主力製品である米国Red Hat社のディストリビューション「Red Hat Enterprise Linux」は、当社が全面的にサポートを行う独自の形態で販売しており、国内におけるサーバ用Linuxディストリビューションサポートサービス市場でNo.1の評価を得ました。また、企業システムの安定稼働を支えるHAクラスタソフトウェア「LifeKeeper」やセキュリティ関連ソフトウェアなど、機能性が高く、システムの安定稼働に貢献する多彩なソフトウェアを提供しています。

### SIビジネス

数多くのオープンソースソフトウェアを駆使して、最適なシステムを生み出しています。

世界中の技術者が無償で開発を重ね、その高い信頼性とコストパフォーマンスに注目が集まるオープンソースソフトウェ

#### 主な取り扱いソフトウェア

- 世界トップシェアを誇るLinuxディストリビューション「Red Hat Enterprise Linux」
- システムの安定稼働を支えるHAクラスタソフトウェア「LifeKeeper」



#### 主なソフトウェア導入実績

- 日本コムシス株式会社様  
テナート二の提供する総合的なシステム・インテグレーション力が、基幹業務システムのWeb化に向けたLinuxシステム基盤の構築を強力に支援しました。



ア(OSS)。当社は設立以来、LinuxをはじめとするさまざまなOSSに関する技術を蓄積し、顧客のニーズに合わせた最適なシステムを設計・開発するSIビジネスを展開してきました。システム構築はもちろん運用サポートに対する信頼も厚く、安心のOSSソリューションで、多くの顧客企業から高い評価を得ています。

### サーバビジネス

導入から運用まで、幅広いサービスメニューとともにLinuxサーバシステムを提供、サポートしています。

Linuxサーバシステムの構築には、ハードウェアとソフトウェアを統合的に見渡せる知識とノウハウが必要です。当社は、Linuxに関する卓越した技術を持つハードウェアシステムベンダーとして、サーバ製品販売のみならず、システムの導入コンサルティングから、インストレーション、運用技術サポートに至るまで、幅広いインフラ構築サービスを提供し、顧客企業の信頼を獲得しています。

- 株式会社アトラス ヒューマネージ 様  
Web適正検査のシステム増強を図り、LinuxベースのHAクラスタソリューションを導入。テナート二の高い技術力と迅速な対応で大きな信頼を得ました。
- クオンツ・リサーチ株式会社 様  
ITコストを抑えつつ迅速な障害復旧とシンプルな機能で、顧客の信頼性の向上に寄与しました。
- 下関総合政策部 情報政策課 様  
行政・地域情報を提供するネットワーク構築を、当社HAクラスタツールで冗長化しました。

### こんなところにテナート二

大学内の全教職員8,000名が活用する  
新たなメールシステム構築に

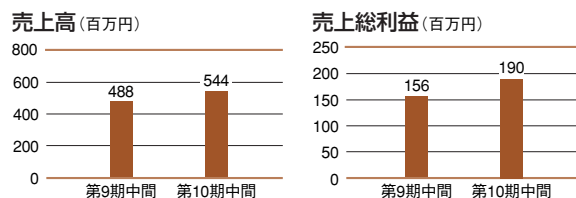
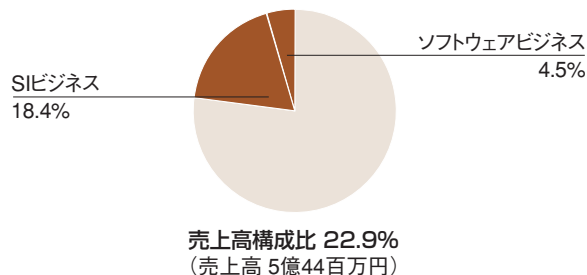
日本大学 総合学術情報センター 様

日本大学様では、従来、学部ごとにITインフラを運用しており、そのコストと労力が大きな負荷となっていました。そこで、学内で各種情報サービスを提供している「総合学術情報センター」がITインフラの統合と標準化に着手。その一環として構築した新メールシステムに、当社の提案が採用されました。

新システムは、学部ごとのメールサーバを統合し、全教職員8,000名にメールアドレスを付与するという計画でしたが、将来的にユーザー数が増えてもライセンス料のかからないOSSベースでのシステム構築が求められました。これを受け当社は、主力取り扱い製品である「Red Hat Enterprise Linux」を中心に構成したメールシステムを構築。導入コストだけでなく、運用コストの大幅な削減を実現しました。また、全学生のメール使用を視野に、大量のメールの高速処理や多言語での送受信といった機能も盛り込むなど、OSSを活用したSIサービスで蓄積したノウハウを最大限に発揮し、顧客の合理化・標準化ニーズに応える最適なメールシステムを構築しました。



### 当中間期の事業概況



当中間期におけるJava関連事業の売上高は5億44百万円、売上総利益は1億90百万円となりました。

今後の伸びが期待できるブログ開発などの新しいSIビジネスへの取り組みを強化する一方、受託開発ソフトウェアの品質管理マネジメントを一層強化し、差別化を推進しています。また、日本IBM社の「Rational」や、米国Agitar Software社の「Agitator」といった品質管理ソフトウェアの販売も開始し、ソフトウェアの品質管理分野において、競争力を高めました。さらに営業効率改善ソフトウェア「TenArtni SFA+」や、ビジュアルWebシステム構築ソフトウェア「TenArtni Ninja-VA」、帳票作成ソフトウェア「WebReportCafe」などの自社開発ソフトウェアの売上拡大にも注力しました。

### Javaに関する高度な技術力を駆使して

#### SIビジネス

多岐にわたる顧客企業の業務を深く理解し、競争力強化につながるWebシステムを構築しています。

Webによる情報化が不可欠な今、企業は多くの情報資産をWebシステムで効果的に活用しようとしています。そうしたなか、当社は顧客企業の業務理解をベースに、JavaによるWebシステムの設計・開発・構築を通じて最適なソリューションを提供し、企業の競争力強化に貢献。自社開発のソフトウェアを駆使し、開発期間を大幅に短縮したり、開発時における柔軟な対応を実現するなど、Java/Webシステム構築に精通したソフトウェア企業として独自の強みを発揮しています。

#### 主なシステム開発実績

- キリンビバレッジ株式会社 様  
営業活動を支援する「新販売情報システム」を、LinuxとJavaをベースに構築しました。

#### 主な取扱いソフトウェア

- Webアプリケーションの開発環境をビジュアル化する「TenArtni Ninja-VA」
- 帳票作成ソフトウェア「WebReportCafe」
- 営業効率改善ソフトウェア「TenArtni SFA+」
- ソフトウェア知的財産の管理ツール「protexIP」
- テストプロセス支援ソフトウェア「Agitator」



## ソフトウェアビジネス

システム開発現場における“生産性向上”をはじめ、業務効率向上を支援するソフトウェアを開発・提供しています。

競争力強化に向けて、企業ではITを活用したさらなる業務効率化が問われ、それを実現するシステムの開発現場においてもまた、開発のスピードアップが求められています。当社は、「Java/Webシステムにおける開發生産性向上」を実現するフレームワークを独自に開発・提供。「TenArtni Ninja-VA」は、ビジュアルな環境でJava/Webシステムの開発を実現し、開発の大幅なスピードアップにつながるとして高い評価を得ています。ほかにも、システム開發生産性向上をテーマとした海外のユニークなソフトウェアを提供する一方で、企業の業務効率向上に役立つSFA（営業効率改善ソリューション）などのソフトウェア開発も行っています。

### 主なソフトウェア導入実績

- NECテレコムソフトウェア フィリピン 様  
海外でのオフショア開発において、当社開発ツールと教育ノウハウを活用いただきました。
- 日経印刷株式会社 様  
SFAツールの導入により、組織的な営業力が大幅に強化されました。
- 株式会社日鉄エレックス 様  
ナレッジデータベース・アプリケーションの開発基盤に、当社のWebシステム開発ソリューションを採用いただきました。

## こんなところにTenArtni

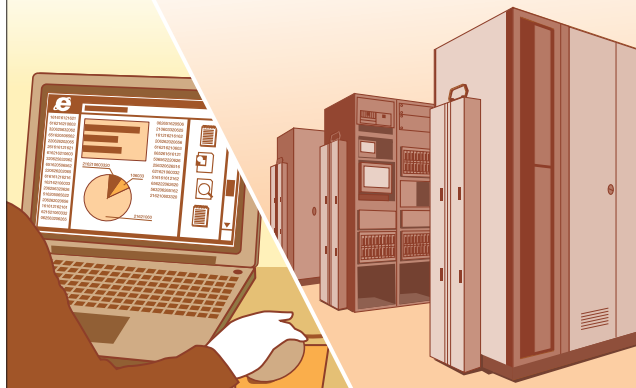
セキュリティ対策システムの運用・監視状況をレポートするWebポータルシステムに

東日本電信電話株式会社  
アウトソーシングマネジメントグループ 様

東日本電信電話様では、企業からサーバなどの設置・運用を請け負うデータセンターを運営しています。そのなかで、セキュリティ対策システムの運用を請け負い、監視するセンターの開設にあわせ、監視状況をリアルタイムにレポートするWebポータルシステムを構築しました。

このプロジェクトは、システムの要件が完全に固まらないなか、実質2か月という短期間でシステムを構築するというものだったことから、当社は、GUIによってビジュアルにシステムを構築でき、Webシステムに必要となるさまざまな機能を予め備えた「TenArtni Ninja-VA」によるシステム構築を提案。開発段階のシステム要件の変更に柔軟に対応するとともに、業務理解と豊富な経験にもとづき顧客の開発業務を的確にサポートすることで、開發生産性の向上と開発期間の短縮に貢献しました。

また、この実績が高く評価され、ユーザーがデータセンターへの入館申請をWeb上でできるデータセンター用Webポータルシステムの開発案件も受注することができました。



## 要約財務諸表

### 貸借対照表(単体)

(単位:百万円)

区分	前中間期 (2005年6月30日現在)	当中間期 (2006年6月30日現在)	前期 (2005年12月31日現在)
<b>資産の部</b>			
<b>流動資産</b>	<b>2,177</b>	<b>2,423</b>	<b>2,607</b>
1 現金及び預金	1,046	533	734
受取手形及び 売掛金	667	805	926
たな卸資産	164	443	495
* 前渡金	136	622	360
繰延税金資産	155	13	101
その他	7	23	13
貸倒引当金	—	△18	△25
<b>固定資産</b>	<b>217</b>	<b>2,265</b>	<b>250</b>
有形固定資産	41	44	41
無形固定資産	47	64	59
2 投資その他の 資産	127	2,155	149
<b>資産合計</b>	<b>2,395</b>	<b>4,688</b>	<b>2,857</b>
<b>負債の部</b>			
<b>流動負債</b>	<b>567</b>	<b>1,820</b>	<b>922</b>
買掛金	217	262	370
3 短期借入金	—	700	—
* 前受金	249	691	421
その他	100	166	131
4 固定負債	55	1,054	63
<b>負債合計</b>	<b>623</b>	<b>2,875</b>	<b>986</b>
<b>資本の部</b>			
<b>資本金</b>	<b>945</b>	<b>—</b>	<b>977</b>
<b>資本剰余金</b>	<b>325</b>	<b>—</b>	<b>357</b>
<b>利益剰余金</b>	<b>501</b>	<b>—</b>	<b>536</b>
<b>資本合計</b>	<b>1,772</b>	<b>—</b>	<b>1,871</b>
<b>負債資本合計</b>	<b>2,395</b>	<b>—</b>	<b>2,857</b>
<b>純資産の部</b>			
<b>株主資本</b>	<b>—</b>	<b>1,813</b>	<b>—</b>
資本金	—	983	—
資本剰余金	—	363	—
利益剰余金	—	466	—
<b>純資産合計</b>	<b>—</b>	<b>1,813</b>	<b>—</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>—</b>	<b>4,688</b>	<b>—</b>

### 損益計算書(単体)

(単位:百万円)

区分	前中間期 (2005年1月1日～ 2005年6月30日)	当中間期 (2006年1月1日～ 2006年6月30日)	前期 (2005年1月1日～ 2005年12月31日)
<b>売上高</b>	<b>1,994</b>	<b>2,375</b>	<b>4,247</b>
売上原価	1,364	1,673	2,952
<b>売上総利益</b>	<b>629</b>	<b>701</b>	<b>1,294</b>
5 販売費及び一般 管理費	449	653	1,024
<b>営業利益</b>	<b>180</b>	<b>48</b>	<b>270</b>
営業外収益	0	11	0
営業外費用	2	13	2
6 <b>経常利益</b>	<b>178</b>	<b>47</b>	<b>268</b>
特別利益	—	12	—
<b>税引前中間(当期) 純利益</b>	<b>178</b>	<b>59</b>	<b>268</b>
法人税、住民税及び 事業税	1	1	2
法人税等調整額	△9	90	44
7 <b>中間(当期)純利益 又は純損失(△)</b>	<b>186</b>	<b>△31</b>	<b>222</b>
前期繰越利益	314	—	314
<b>中間(当期)未処分 利益</b>	<b>501</b>	<b>—</b>	<b>536</b>

注) 中間株主資本変動計算書について…中間期は配当していませんので、省略させていただきました。

### キャッシュ・フロー計算書(単体)

(単位:百万円)

区分	前中間期 (2005年1月1日～ 2005年6月30日)	当中間期※ (2006年1月1日～ 2006年6月30日)	前期 (2005年1月1日～ 2005年12月31日)
営業活動による キャッシュ・フロー	301	—	△33
投資活動による キャッシュ・フロー	△12	—	△53
財務活動による キャッシュ・フロー	—	—	63
現金及び現金 同等物の増減額	288	—	△23
現金及び現金 同等物の期首残高	757	—	757
現金及び現金同等 物の中間期末 (期末)残高	1,046	—	734

※ 当中間期キャッシュ・フロー計算書:当中間期より、キャッシュ・フロー計算書は連結のみとさせていただきます。

## 中間貸借対照表(連結)

(単位:百万円)

区分	当中間期 (2006年6月30日現在)
<b>資産の部</b>	
<b>流動資産</b>	<b>2,642</b>
現金及び預金	561
受取手形及び売掛金	867
有価証券	123
たな卸資産	443
* 前渡金	622
その他	43
貸倒引当金	△18
<b>固定資産</b>	<b>2,216</b>
有形固定資産	49
8 無形固定資産	1,943
投資その他の資産	222
<b>資産合計</b>	<b>4,859</b>
<b>負債の部</b>	
<b>流動負債</b>	<b>1,991</b>
買掛金	235
短期借入金	700
* 前受金	691
その他	363
<b>固定負債</b>	<b>1,054</b>
長期借入金	1,000
退職給付引当金	32
その他	22
<b>負債合計</b>	<b>3,046</b>
<b>純資産の部</b>	
<b>株主資本</b>	<b>1,813</b>
資本金	983
資本剰余金	363
利益剰余金	466
<b>純資産合計</b>	<b>1,813</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>4,859</b>

注) 中間損益計算書(連結)について…当中間期においては、単体の損益計算書と同様につき、省略させていただきました。

## 中間キャッシュ・フロー計算書(連結)

(単位:百万円)

区分	当中間期 (2006年1月1日～ 2006年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	148
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,874
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,675
現金及び現金同等物の減少額	△50
現金及び現金同等物の期首残高	734
現金及び現金同等物の中間期末残高	684

### 財務解説

#### 1 現金及び預金

米国SteelEye Technology社の買収などによる支出で、前中間期比512百万円の減少となりました。

#### 2 投資その他の資産

関係会社(米国SteelEye Technology社)株式1,950百万円を計上しました。

#### 3 短期借入金

米国SteelEye Technology社買収のための借り入れです。

#### 4 固定負債

米国SteelEye Technology社買収に伴う長期借入金を1,000百万円計上したことで、前中間期比999百万円の増加となりました。

#### 5 販売費及び一般管理費

人員の積極採用に伴う人件費の増加や、販売支援費、広告費、研究開発費の増加などにより、前中間期比45.4%の増加となりました。

#### 6 経常利益

販売費及び一般管理費が増加したことで、前中間期比73.7%の減少となりました。

#### 7 中間(当期)純利益又は純損失

繰延税金資産の取り崩しにより31百万円の損失となりました。

#### 8 無形固定資産

のれん(米国SteelEye Technology社)1,878百万円を計上しました。

### 用語解説

#### \* 前渡金/前受金

前渡金…仕入計上前の支払金 前受金…売上計上前の受取金

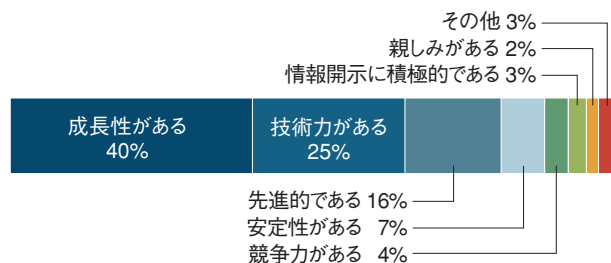


## 株主アンケートの集計結果

株主の皆様にお答えいただいたアンケート結果を踏まえ、IR活動の充実に取り組むとともに、企業価値のさらなる向上をめざします。

有効回答者数:172名

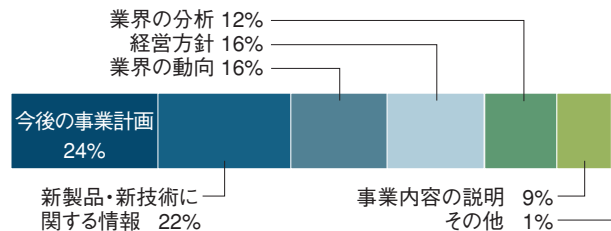
### 当社に対してどのようなイメージをお持ちですか？



### 今後充実してほしいIR活動は何ですか？



### 今後事業報告書で取り上げてほしい情報は、どのような内容ですか？



### 当社のIR活動について率直なご意見をお聞かせ下さい。 (ご回答から一部抜粋)

- リナックス市場での貴社のシェアを教えてください。
- 今後の事業展開について教えてください。
- ソフトウェア技術に詳しくない人にもわかりやすい説明をお願いします。
- 配当金など株主に対する施策が知りたいです。

たくさんのご意見ありがとうございました。

### 皆様のご意見をこう活かしました。

第9期事業報告書で実施した株主様アンケートには、172名の皆様からご回答をいただきました。

皆様からは、業界の動向や業界を知りたいとのご要望が多く寄せられたことから、「SIOS Report」ではサーバ用Linuxディストリビューション市場の予測や同サポートサービス市場における当社のシェアなどの客観データも掲載しました。また、会社説明

会を充実してほしいとのご要望にお応えし、開催地の近くにお住まいでない皆様にも当社をご理解いただけるよう、2006年8月に大手ネット証券会社でインターネット会社説明会を開催しました。

これからも株主の皆様のご意見・ご要望を踏まえて、IR活動の充実を図っていきます。

## 株式の情報 (2006年6月30日現在)

### 株式の状況

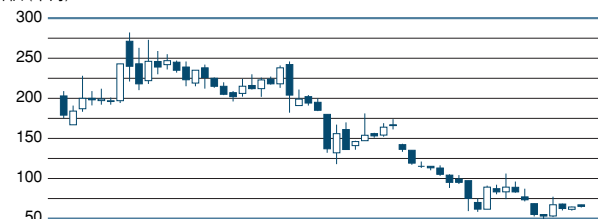
会社が発行する株式の総数	150,000株
発行済株式総数	77,582株
株主数	4,673名

注) 第三者割当増資に伴い、2006年8月24日に新株式11,100株を交付いたしました。

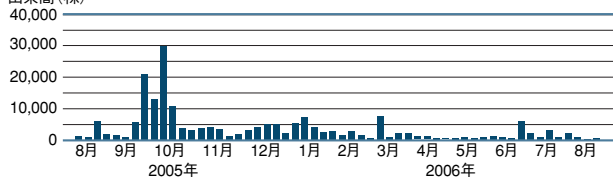
内訳 日商エレクトロニクス株式会社・・・ 10,000株  
富士通株式会社・・・・・・・・・・・・ 1,100株

### 株価チャート

株価 (千円)

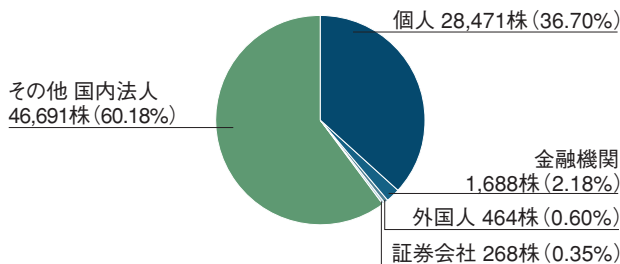


出来高 (株)



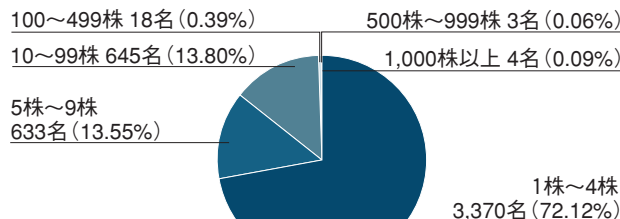
### 所有者別株式分布状況 (株式数)

合計 77,582株



### 所有株数別株主分布状況 (株主数)

合計 4,673名



### 株主メモ

決算期	毎年12月31日
定時株主総会	毎年3月
基準日	毎年12月31日 その他必要があるときは、 あらかじめ公告して定めます。
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社 本店
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および 全国各支店

決算公告掲載 当社は決算公告を  
当社ホームページ上に掲載しています。  
<http://www.10art-ni.co.jp/ir/kessankoukoku.html>

その他の  
公告掲載紙 日本経済新聞

上場取引所 東証マザーズ

コード番号 3744

## 会社概要 (2006年8月31日現在)

会社名 株式会社テンアートニ  
(英語表記: 10art-ni Corporation)

本社住所 東京都千代田区外神田二丁目15番2号  
新神田ビル

設立 1997年5月23日

資本金 1,481,000千円

従業員数 連結215名、単体186名

決算 年1回(12月)

役員 代表取締役社長 喜多 伸夫  
取締役 三小田 良次  
取締役 郷坪 智史  
取締役 後藤 和彦  
取締役 田中 修  
取締役 福田 敬  
常勤監査役 堀 岩雄  
監査役 古畑 克巳  
監査役 河辺 春喜

交通 地下鉄銀座線末広町駅より徒歩5分  
JR 御茶ノ水駅より徒歩7分  
JR 秋葉原駅より徒歩12分

IRサイト <http://www.10art-ni.co.jp/ir/index.html>



ホームページ上でもIR情報を公開しています



株式会社 テンアートニ

〒101-0021 東京都千代田区外神田二丁目15番2号新神田ビル  
TEL. 03-5298-2855 FAX. 03-5298-2865

- 2006年11月6日、株式会社テンアートニはサイオテクノロジー株式会社へ社名を変更します。
- 2007年1月より下記に移転します。  
移転先住所: 東京都港区虎ノ門四丁目24番9号